



せいねんかいがいきょうりよくたい
青年海外協力隊
やまもと れいね
山本 麗音

ナミビアと日本の季節のちがい

11月になり、みんなは学びの集いに向けて練習を頑張っているところでしょうか？あれだけ暑かった気候も、今の京都は寒さが強くなってきていると聞いています。対してナミビアは、今かなり暑くなってきています。あれ？季節は同じじゃないの？と思った人もいるのではないのでしょうか。実は、ナミビアと日本は季節が反対になっています。日本は今冬に向かって寒くなっているところですが、ナミビアは今夏に向かって日々暑くなっているところなのです。アフリカは暑いところ、というイメージで7月にナミビアに着きましたが、7月のナミビアは日本の冬のように寒く、びっくりしました。特に、ナミビアは砂漠があるので、朝晩はかなり冷え込みます。

また、日本には梅雨があり、6月にたくさん雨が降りますね。ナミビアには雨季と乾季という2つの時季があり、雨季になると一度にたくさんの雨が集中して降りますが、乾季には数カ月を通して雨が降ることはめったにありません。



この前、ナミビアに来て初めて本格的に雨が降りました。雷がすごく、写真のような稲光がずっと光っていました。雨も風も強く、夕方から停電し始め、次の日のお昼ごろまで電気が使えませんでした。電気が使えないと、真っ暗なまま、料理もできず、お湯も沸かせず・・・電気のありがたみをひしひしと感じました。そして、朝起きると家の前に川ができていました。家の周りの地面は、砂漠のようなサラサラの土なので、いつもは水をやってもすぐに地面にしみこんでしまいます。その地面に川ができるぐらいですから、かなりの雨がひと晩中降っていたことになります。その3日後ぐらいには、今まで茶色一色だった地面に、小さな芽がはじまり、地面は緑色の大地へと少しずつ変わってきています。



めぐみの雨に、
ナミビアの人たちは
大よろこび!!



ぎょうじ ナミビアの学校には、どんな行事があるの？

日野小学校には、いろいろな行事がありますよね。運動会があったり、学びの集いがあったり。ナミビアの学校にも、いろいろな行事が行われています。今回は、10月に行われた行事を2つ紹介したいと思います。どちらも、日本の学校にはない行事だと思います。

それでは1つ目「アーボーデー」

アーボーとは、英語でArborと書き、「木・日よけの場所」という意味があります。みなさんの生活の中にも、木から作られているものがたくさんありますね。いつも使っている机やイス、紙、えんぴつなどなど。また、木から家を作することもできます。さらに、暑い日には、木陰に入って涼むこともできますよね。生活の中で欠かすことのできない「木」に感謝し、また新たな木を植えるという行事です。セレモニーでは、1学年に1本ずつ、木の苗がプレゼントされました。



つづいて2つ目は「カルチャーウィーク」です。

ナミビアには、およそ12の部族があり、みんな自分の部族の文化を大切にしながら生きています。日本にもたくさん文化があり、地域によってちがう文化を持っていますが、服や使う言葉は似ていますよね。しかし、ナミビアでは部族によって使う言葉や着る服、はだの色など、ちがうことがたくさんあります。先生がはたらいている学校には、いろいろな部族の子たちが集まって生活しているので、カルチャーウィークでは、自分たちの文化を他のお友だちと紹介し合いました。子どもたちだけで料理を作ったり、ダンスをおどったりしました。民族衣装もすてきでした。

